

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475400966		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム なんてん長嶺荘 桜木ユニット		
所在地	仙台市太白区長嶺8-10		
自己評価作成日	2019年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2019年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位の理念のもと、今出来る力を維持していけるようにその方に合った力を発揮できるように支援しています。また生活の楽しみも利用者様ごとによって異なるが、その方に合わせた楽しみやホームでの季節行事もご家族に協力して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平屋建てで、バス通りに面した住宅街にある。「株式会社ウェル」を2002年に設立し、2004年「なんてん長嶺荘」を開所し15年目を迎えた。法人理念「ゆったり、寄り添って、地域と共に」を基に、年1回、職員で話し合い各ユニットの理念を掲げている。楽しみ委員会・安心きれい委員会・思いやり委員会を設置し、職員は各テーマに添って全員で活動している。運営推進会議には家族も出席している。認知症カフェに利用者と一緒に参加し、隣りにあるコンビニの店員とは、利用者も職員も顔見知りになっているなど、地域との交流を深めている。看取り指針が整備され、実績もあり、管理者や看取り経験のある職員が中心となり、利用者・家族に寄り添った看取りができるよう努めている。毎月、避難訓練を行なうことで、全職員が避難訓練に参加できるようになった。更に地域住民の協力を得る取り組みを検討中である。居室は、様々な仕様で造られており、共用室や廊下には、大きなソファや椅子が置かれ、裏庭には大きな桜の木があり季節の移ろいが感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHなんてん長嶺荘）「ユニット名 桜木」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長嶺荘の理念は事務所内・各ユニット内の目に付く場所に掲示している。長嶺荘の理念は毎朝復唱しており、ユニット内の理念は1年に1回職員同士話し合い理念の見直しをしている。	年1回、法人理念(ゆったり、寄り添って、地域と共に)を基に、各ユニットで話し合い理念を決めている。これらを、事務所や各ユニットに掲示し、確認している。別途「長嶺荘の目標」として理念の周知・事故防止・新人教育を掲げ取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や地域の認知症カフェに参加したり、利用者さんが馴染みの美容室に行くなど地域とのつながりをもっている。事業所の行事には民生委員の方が参加し交流している。	町内会に加入し、地域の夏祭り、町内会の清掃活動や資源回収に参加している。利用者と職員が地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加し、地域との交流を図っている。ボランティアや近隣の幼稚園児の来訪があり、利用者も楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長町地域主催の認知症カフェに管理者と利用者さんが参加し交流を深めながら、認知症の方やご家族の方との話を通じながら認知症についての理解を深める取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議開催している。事業所の取り組みやご意見・ご要望を伺っている。行事などもご家族からの意見を参考にしている。	隔月開催し、家族(全家族に案内)、地域包括職員、民生委員、職員が参加し、ホームからの報告や地域の情報提供が行われている。エアコンの温度管理についての意見があり検討・改善した。終了後は、参加者の交流の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加してもらい、意見や情報を収集する機会を設けている。市主催の研修会へ参加したり、連絡や相談を行っている。	市担当課とは、制度や仕組みなどについて電話で確認したり、必要な相談も適宜行い、協力連携することができている。保護課とは支払いのことなどで相談をしている。市主催の研修会などへ参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行っている。また毎月ユニット毎身体拘束や虐待についても目標を掲げて取り組んでいる。日中の施錠は行っていない。	毎月、ユニットごとに目標を掲げ、身体拘束防止や虐待防止のための勉強会を行っている。職員は、身体拘束のグレーゾーンも含めケアの仕方を意識し、利用者が気持ちよく過ごせるよう努めている。不穏な状態の時には、一緒に外出することもあり、隣のコンビニ店員とは顔なじみで見守りなど協力が得られる関係である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強を設けて虐待知識を身に付ける様に努めていたり、毎月ユニット毎の目標にも盛り込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、参加者が事業所内の会議にて発表し管理者・職員学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い読み合わせすることで、ご家族の不安や疑問点について伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族が来所した際にさりげなく聞き取りを行っている。運営推進会議時にも意見を頂戴する場を設けている。	家族会はないが、運営推進委員会の案内を全家族に行い、意見や要望を聞いている。エアコンの温度設定などについて意見が出され改善している。管理者は家族から、来所時にできるだけ意見・要望など、話を聞くよう努めている。第三者委員は委嘱しているが相談はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議時に各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。各委員会に所属し意見や提案を反映できるように努めていたり、こまめに職員と話す機会を設けるよう努めている。	毎年、職員面談を行い、要望や意見を聞いている。職員は委員会に所属しており、事業運営に関わっている。全体会議で各委員会が取り組んだ報告や、検討をしている。腰痛対策として車いすで湯船まで行けるように浴室の段差を無くす改装を行った。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にし、随時、話を聴くように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回自己評価シートを使用し、個別評価と面談を行い反映に努めている。代表者が個別の面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その職員に力量に合わせながら、定期的に外部研修や内部研修に参加する機軸を設ける事でスキルアップや知識を深めていけるような取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加してもらったり、実務者研修や初任者研修での関わりに取り組んでいる。同敷地内の他事業所も運営推進会議に参加した事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者実調シートや基本シートを用いて、ご本人の思いや不安を聞き取りを行っている。サービス開始後は安心できるような声掛けや関係性を構築できる努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安点や困っている事などを聞きながら寄り添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者実調シートや基本シートを用いながらご家族やご本人の思いなどを聞き取っていき、状況に合ったサービスの利用に繋がられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来る事を一緒に行ったり、困っていることがあればお手伝い等買い物に行き一緒に行ったりと関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議時に参加しご家族の考え等を聞く機会を設けたり来訪時にはご本人の様子を伝えながら、ご家族の思いを聞き取れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある美容室に定期的に通われたり友人の方が来訪したり電話をくれたりしている。馴染みの関係が途切れないように努めている。	年賀状のやり取りや電話を取り次ぐなど、交流が続けられるよう支援している。家族と一緒に美容室へ行ったり、自宅へ外泊できるように支援している。地元の同級生が訪ねてくる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を配慮した上で、席の配置など考慮している。会話の仲介に入ったりしていきながら孤立せず関わりあいがもてるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、お手紙を出したりしたり、電話を頂戴することがあり、近況などを報告したりする中で、相談支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の言葉や希望などを聞き取りしていきながら職員同士意見の交換や記録に記入する事で情報共有に努めている。	入居時に利用者の生活や職歴を詳しく聞き取り情報カードへ記入している。職員は、入居前に暮らしていた自宅や部屋の間取り、特徴も把握し、利用者とのコミュニケーションが深められるように努めている。職員は日常的にも利用者の思いがくみとれるよう工夫しており、記録し情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時に、ご家族から生活歴や馴染みの暮らし方の聞き取りを行い、サービス利用の経過を職員間で共有していけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や心身情報の把握するために個人記録に記入していき把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの実施状況を記録に残しつつ1回モニタリングを実施。ご家族からの意見も反映できるように来所時にも意見を伺う。意見やアイデアは月1回のユニットミーティング時や必要に応じて話し合う機会を設ける。	月1回、全職員で利用者一人ひとりの情報シートに記入し、介護計画について話し合っている。利用者の言葉を大切に、医療情報をもとにした介護計画の作成に努めている。家族からは来訪時や電話で意見・要望を聞き介護計画に反映し、作成後には説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に毎日記入していき、職員間での情報共有に努めている。全体把握の日記にその日のケアポイントを挙げ共有・継続していくことで見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節ごとの行事や外出だけではなく、地域の行事参加など本人の意向を汲み取り添えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や近所のコンビニ店を使用し顔なじみの関係を作れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力もあり希望のかかりつけ医を受診している。ご本人・ご家族が安心して医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医について、家族の意向を確認している。かかりつけ医には、バイタル情報などを提供して医療連携に努めている。かかりつけ医が協力医の場合、受診は職員が同行し、受診後に家族へ報告している。その他の受診は家族付き添いを基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、週1回看護師が定期訪問し健康管理を行っている。相談や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞い時に病院関係者から、ご本人の状態などの情報交換している。ご家族と医師の病状説明時にはなるべく同席している。早期退院や病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にはご家族や本人の意向は伺い、事業所としての支援方法も話し伝えている。体調の変化があった際にはすぐに連絡し主治医の指示などもお伝えしている。状況に応じてご家族の考えもその都度確認するようにはしている。	入居時に「看取り介護の指針」を説明・確認している。重度化してきた時にも再度、家族の意向を確認している。看取りの実績があり、職員の看取り経験者も多い。職員はその都度に振り返りを行い、質の向上に努めている。利用者の状態を詳しく記録し、医療連携を図っている。医師の判断で利用者が個別訪問看護ステーションと契約することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に落ち着いて対応出来る様マニュアルの整備・訓練に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。(昼夜想定含)自動火災報知設備・スプリンクラーの説明を消防設備業者の立会いの下実施している。	土砂災害危険地域にあり、風水害についても積極的に対応策を検討している。夜間訓練を含んだ訓練を毎月行うなど、防災意識は高いが、更に地域住民の協力が得られる必要があると考えている。	地域住民も参加した避難訓練ができるよう、運営推進会議との同時開催や地域への呼びかけなど、協力体制の構築を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内の委員会(接遇委員会)が中心となりプライバシーを損ねないような声掛け等をユニット内の月の目標として掲げて意識化したり、声掛けの対応にも注意している。	接遇委員会が毎月、排泄時の声かけやケア時の対応についての目標を掲げ、プライバシーの確保や人格の尊重に努めている。入居時に、名前の呼び方についての意向を確認したり、話題にしてほしくないことなども聞き取り配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普通の会話の中で自己決定しやすいように努めている。答えやすい言葉や分かりやすい言葉で話し伝えるようにしたり、表情やしぐさなどにも汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活ペースに合わせて生活支援を行っている。希望があればすぐに対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい物を選んでもらったり、化粧水をつけたり日々の中でその方が習慣としていたものを大切にするように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の力に合わせて一緒に準備や後片付けをしたりしている。食の楽しみを感じてもらえるようおやつにも嗜好品を取り入れている。	職員による調理を委託事業者からの食事提供に変更し、献立作成も委託している。このため、職員が利用者とかかわる時間がふえた。利用者とおやつを作り、誕生月にはケーキを用意している。職員は、利用者と食事を一緒にし、希望に添い外食する機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し摂取状況を把握していきながら日々の状態把握に努めている。状態に合わせて食形態を変えたり嗜好品や食べやすいもので捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる能力を活かしつつ、その方に応じて仕上げ磨きを職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄表を確認していきながら把握に努めている。トイレでの排せつや自立を促している。	昼夜ともに、利用者の状態に合わせて、トイレでの排泄ができるようパターンを把握しケアに繋げている。便秘予防には、飲み物を工夫したり、運動などを取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や軽体操・事業所内の歩行の働きかけを促したり、牛乳などの提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせていきながら声掛けを行っている。入浴が楽しみに感じていただけるように会話などにも工夫している。	入浴は週2回を基本としているが、できるだけ希望をかなえられるようにしている。利用者が車いすで浴槽まで行けるように入浴設備を改装し改善した。シャンプーや石鹸などは、利用者の希望に合わせて好きな物を用意し対応している。楽しい入浴になるよう、会話などを工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた休息時間を設けたり、体調面にも配慮していきながら体への負担がないように支援している。室温や湿度・照明などにも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更がDrからあった際には職員間で口頭・記録に記入し情報共有に努めており、副作用や薬の働きについてはDrや薬剤師の方に聞いている。薬の説明書ファイルに綴っており、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせて張り合いを持ったり役割を持った生活ができるよう支援に努めている。気分転換としては隣のユニットに遊びに行ったりホーム周辺を散歩したりゲームや行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に配慮していきながら定期的に外出できる機会を設けている。会話の中で本人の希望を聞き取りしたり事前に外出先を伝えて楽しみある生活をもてるように配慮している。	年間計画を立てて外出支援をしている。ドライブ、外食、ショッピングなど、車いすに対応できる車があり、皆で外出している。職員は、日常の会話から利用者の希望を汲み取り、外出が楽しめるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の理解能力に応じて、ご本人が金銭管理している方もいる。買い物の希望があった際には希望に応じて一緒に外出し買い物を楽しんでいる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って使用したり代行して電話をかけたりにしている。手紙に関しても希望により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように写真や飾りつけを一緒に行っている。不快や混乱を招くような音などにも配慮している。	居間の他に和室のスペースもあり、広々としている。廊下には、利用者がいつでも休めるようにソファや椅子が置いてある。時計や掲示物などは、利用者の目線に合わせ見やすいようにしている。温・湿度管理は職員が行い、利用者が心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さん同士で過ごせるように椅子を廊下に置いたり居室で過ごせるような環境づくり声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ち込んでもらい居心地よく過ごせるよう工夫に努めている。	居室のタイプは広さやトイレの有無など様々で、ベッド、エアコン、洗面台、室温計が設置されている。家具やテレビの他、写真やぬいぐるみなどの馴染みの物が置かれている。居室担当の職員が決まっており、整理整頓などを担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂はわかりやすく表示したり利用者様の「できること」「わかること」を職員間で共有し安全に過ごせたり安心してせいかつできるように声掛けにも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475400966		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム なんてん長嶺荘 青山ユニット		
所在地	仙台市太白区長嶺8-10		
自己評価作成日	2019年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2019年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位の理念のもと、今出来る力を維持していけるようにその方に合った力を発揮できるように支援しています。また生活の楽しみも利用者様ごとによって異なるが、その方に合わせた楽しみやホームでの季節行事もご家族に協力して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平屋建てで、バス通りに面した住宅街にある。「株式会社ウェル」を2002年に設立し、2004年「なんてん長嶺荘」を開所し15年目を迎えた。法人理念「ゆったり、寄り添って、地域と共に」を基に、年1回、職員で話し合い各ユニットの理念を掲げている。楽しみ委員会・安心きれい委員会・思いやり委員会を設置し、職員は各テーマに添って全員で活動している。運営推進会議には家族も出席している。認知症カフェに利用者と一緒に参加し、隣りにあるコンビニの店員とは、利用者も職員も顔見知りになっているなど、地域との交流を深めている。看取り指針が整備され、実績もあり、管理者や看取り経験のある職員が中心となり、利用者・家族に寄り添った看取りができるよう努めている。毎月、避難訓練を行なうことで、全職員が避難訓練に参加できるようになった。更に地域住民の協力を得る取り組みを検討中である。居室は、様々な仕様で造られており、共用室や廊下には、大きなソファや椅子が置かれ、裏庭には大きな桜の木があり季節の移ろいが感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHなんてん長嶺荘）「ユニット名 青山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長嶺荘の理念は事務所内・各ユニット内の目に付く場所に掲示している。長嶺荘の理念は毎朝復唱しており、ユニット内の理念は1年に1回職員同士話し合い理念の見直しをしている。	年1回、法人理念(ゆったり、寄り添って、地域と共に)を基に、各ユニットで話し合い理念を決めている。これらを、事務所や各ユニットに掲示し、確認している。別途「長嶺荘の目標」として理念の周知・事故防止・新人教育を掲げ取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や地域の認知症カフェに参加したり、利用者さんが馴染みの美容室に行くなど地域とのつながりをもっている。事業所の行事には民生委員の方が参加し交流している。	町内会に加入し、地域の夏祭り、町内会の清掃活動や資源回収に参加している。利用者と職員が地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加し、地域との交流を図っている。ボランティアや近隣の幼稚園児の来訪があり、利用者も楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長町地域主催の認知症カフェに管理者と利用者さんが参加し交流を深めながら、認知症の方やご家族の方との話を通じながら認知症についての理解を深める取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議開催している。事業所の取り組みやご意見・ご要望を伺っている。行事などもご家族からの意見を参考にしている。	隔月開催し、家族(全家族に案内)、地域包括職員、民生委員、職員が参加し、ホームからの報告や地域の情報提供が行われている。エアコンの温度管理についての意見があり検討・改善した。終了後は、参加者の交流の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加してもらい、意見や情報を収集する機会を設けている。市主催の研修会へ参加したり、連絡や相談を行っている。	市担当課とは、制度や仕組みなどについて電話で確認したり、必要な相談も適宜行い、協力連携することができている。保護課とは支払いのことなどで相談をしている。市主催の研修会などへ参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行っている。また毎月ユニット毎身体拘束や虐待についても目標を掲げて取り組んでいる。日中の施錠は行っていない。	毎月、ユニットごとに目標を掲げ、身体拘束防止や虐待防止のための勉強会を行っている。職員は、身体拘束のグレーゾーンも含めケアの仕方を意識し、利用者が気持ちよく過ごせるよう努めている。不穏な状態の時には、一緒に外出することもあり、隣のコンビニ店員とは顔なじみで見守りなど協力が得られる関係である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強を設けて虐待知識を身に付ける様に努めていたり、毎月ユニット毎の目標にも盛り込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、参加者が事業所内の会議にて発表し管理者・職員学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い読み合わせすることで、ご家族の不安や疑問点について伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族が来所した際にさりげなく聞き取りを行っている。運営推進会議時にも意見を頂戴する場を設けている。	家族会はないが、運営推進委員会の案内を全家族に行い、意見や要望を聞いている。エアコンの温度設定などについて意見が出され改善している。管理者は家族から、来所時にできるだけ意見・要望など、話を聞くよう努めている。第三者委員は委嘱しているが相談はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議時に各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。各委員会に所属し意見や提案を反映できるように努めていたり、こまめに職員と話す機会を設けるよう努めている。	毎年、職員面談を行い、要望や意見を聞いている。職員は委員会に所属しており、事業運営に関わっている。全体会議で各委員会が取り組んだ報告や、検討をしている。腰痛対策として車いすで湯船まで行けるように浴室の段差を無くす改装を行った。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に、随時、話を聴くように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回自己評価シートを使用し、個別評価と面談を行い反映に努めている。代表者が個別の面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その職員に力量に合わせながら、定期的に外部研修や内部研修に参加する機会を設ける事でスキルアップや知識を深めていくような取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加してもらったり、実務者研修や初任者研修での関わりに取り組んでいる。同敷地内の他事業所も運営推進会議に参加した事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者実調シートや基本シートを用いて、ご本人の思いや不安を聞き取りを行っている。サービス開始後は安心できるような声掛けや関係性を構築できる努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安点や困っている事などを聞きながら寄り添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者実調シートや基本シートを用いながらご家族やご本人の思いなどを聞き取っていき、状況に合ったサービスの利用に繋がられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来る事を一緒に行ったり、困っていることがあればお手伝い等買い物に行き一緒に行ったりと関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議時に参加しご家族の考え等を聞く機会を設けたり来訪時にはご本人の様子を伝えながら、ご家族の思いを聞き取れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある美容室に定期的に通われたり友人の方が来訪したり電話をくれたりしている。馴染みの関係が途切れないように努めている。	年賀状のやり取りや電話を取り次ぐなど、交流が続けられるよう支援している。家族と一緒に美容室へ行ったり、自宅へ外泊できるように支援している。地元の同級生が訪ねてくる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を配慮した上で、席の配置など考慮している。会話の仲介に入ったりしていきながら孤立せず関わりあいがもてるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、お手紙を出したりしたり、電話を頂戴することがあり、近況などを報告したりする中で、相談支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の言葉や希望などを聞き取りしていきながら職員同士意見の交換や記録に記入する事で情報共有に努めている。	入居時に利用者の生活や職歴を詳しく聞き取り情報カードへ記入している。職員は、入居前に暮らしていた自宅や部屋の間取り、特徴も把握し、利用者とのコミュニケーションが深められるように努めている。職員は日常的にも利用者の思いがくみとれるよう工夫しており、記録し情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時に、ご家族から生活歴や馴染みの暮らし方の聞き取りを行い、サービス利用の経過を職員間で共有していけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や心身情報の把握するために個人記録に記入していき把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの実施状況を記録に残しつつ1回モニタリングを実施。ご家族からの意見も反映できるように来所時にも意見を伺う。意見やアイデアは月1回のユニットミーティング時や必要に応じて話し合う機会を設ける。	月1回、全職員で利用者一人ひとりの情報シートに記入し、介護計画について話し合っている。利用者の言葉を大切にし、医療情報をもとにした介護計画の作成に努めている。家族からは来訪時や電話で意見・要望を聞き介護計画に反映し、作成後には説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に毎日記入していき、職員間での情報共有に努めている。全体把握の日記にその日のケアポイントを挙げ共有・継続していくことで見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節ごとの行事や外出だけではなく、地域の行事参加など本人の意向を汲み取り添えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や近所のコンビニ店を使用し顔なじみの関係を作れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力もあり希望のかかりつけ医を受診している。ご本人・ご家族が安心して医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医について、家族の意向を確認している。かかりつけ医には、バイタル情報などを提供して医療連携に努めている。かかりつけ医が協力医の場合、受診は職員が同行し、受診後に家族へ報告している。その他の受診は家族付き添いを基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、週1回看護師が定期訪問し健康管理を行っている。相談や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞い時に病院関係者から、ご本人の状態などの情報交換している。ご家族と医師の病状説明時にはなるべく同席している。早期退院や病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にはご家族や本人の意向は伺い、事業所としての支援方法も話し伝えている。体調の変化があった際にはすぐに連絡し主治医の指示などもお伝えしている。状況に応じてご家族の考えもその都度確認するようにはしている。	入居時に「看取り介護の指針」を説明・確認している。重度化してきた時にも再度、家族の意向を確認している。看取りの実績があり、職員の看取り経験者も多い。職員はその都度に振り返りを行い、質の向上に努めている。利用者の状態を詳しく記録し、医療連携を図っている。医師の判断で利用者が個別訪問看護ステーションと契約することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に落ち着いて対応出来る様マニュアルの整備・訓練に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。(昼夜想定含)自動火災報知設備・スプリンクラーの説明を消防設備業者の立会いの下実施している。	土砂災害危険地域にあり、風水害についても積極的に対応策を検討している。夜間訓練を含んだ訓練を毎月行うなど、防災意識は高いが、更に地域住民の協力が得られる必要があると考えている。	地域住民も参加した避難訓練ができるよう、運営推進会議との同時開催や地域への呼びかけなど、協力体制の構築を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内の委員会(接遇委員会)が中心となりプライバシーを損ねないような声掛け等をユニット内の月の目標として掲げて意識化したり、声掛けの対応にも注意している。	接遇委員会が毎月、排泄時の声かけやケア時の対応についての目標を掲げ、プライバシーの確保や人格の尊重に努めている。入居時に、名前の呼び方についての意向を確認したり、話題にしてほしくないことなども聞き取り配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で自己決定しやすいように努めている。答えやすい言葉や分かりやすい言葉で話し伝えるようにしたり、表情やしぐさなどにも汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活ペースに合わせて生活支援を行っている。希望があればすぐに対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい物を選んでもらったり、化粧水をつけたり日々の中でその方が習慣としていたものを大切にするように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の力に合わせて一緒に準備や後片付けをしたりしている。食の楽しみを感じてもらえるようにおやつにも嗜好品を取り入れている。	職員による調理を委託事業者からの食事提供に変更し、献立作成も委託している。このため、職員が利用者とかかわる時間がふえた。利用者とおやつを作り、誕生月にはケーキを用意している。職員は、利用者と食事を一緒にし、希望に添い外食する機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し摂取状況を把握していきながら日々の状態把握に努めている。状態に合わせて食形態を変えたり嗜好品や食べやすいもので捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる能力を活かしつつ、その方に応じて仕上げ磨きを職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄表を確認していきながら把握に努めている。トイレでの排せつや自立を促している。	昼夜ともに、利用者の状態に合わせて、トイレでの排泄ができるようパターンを把握しケアに繋げている。便秘予防には、飲み物を工夫したり、運動などを取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や軽体操・事業所内の歩行の働きかけを促したり、牛乳などの提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせていきながら声掛けを行っている。入浴が楽しみに感じていただけるように会話などにも工夫している。	入浴は週2回を基本としているが、できるだけ希望をかなえられるようにしている。利用者が車いすで浴槽まで行けるように入浴設備を改装し改善した。シャンプーや石鹸などは、利用者の希望に合わせて好きな物を用意し対応している。楽しい入浴になるよう、会話などを工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた休息時間を設けたり、体調面にも配慮していきながら体への負担がないように支援している。室温や湿度・照明などにも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更がDrからあった際には職員間で口頭・記録に記入し情報共有に努めており、副作用や薬の働きについてはDrや薬剤師の方に聞いている。薬の説明書ファイルに綴っており、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせて張り合いを持ったり役割を持った生活ができるよう支援に努めている。気分転換としては隣のユニットに遊びに行ったりホーム周辺を散歩したりゲームや行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調に配慮していきながら定期的に外出できる機会を設けている。会話の中で本人の希望を聞き取りしたり事前に外出先を伝えて楽しみある生活をもてるように配慮している。	年間計画を立てて外出支援をしている。ドライブ、外食、ショッピングなど、車いすに対応できる車があり、皆で外出している。職員は、日常の会話から利用者の希望を汲み取り、外出が楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の理解能力に応じて、ご本人が金銭管理している方もいる。買い物の希望があった際には希望に応じて一緒に外出し買い物を楽しんでいる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って使用したり代行して電話をかけたりしている。手紙に関しても希望により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように写真や飾りつけを一緒に行っている。不快や混乱を招くような音などにも配慮している。	居間の他に和室のスペースもあり、広々としている。廊下には、利用者がいつでも休めるようにソファや椅子が置いてある。時計や掲示物などは、利用者の目線に合わせ見やすいようにしている。温・湿度管理は職員が行い、利用者が心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さん同士で過ごせるように椅子を廊下に置いたり居室で過ごせるような環境づくり声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ち込んでもらい居心地よく過ごせるよう工夫に努めている。	居室のタイプは広さやトイレの有無など様々で、ベッド、エアコン、洗面台、室温計が設置されている。家具やテレビの他、写真やぬいぐるみなどの馴染みの物が置かれている。居室担当の職員が決まっており、整理整頓などを担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂はわかりやすく表示したり利用者様の「できること」「わかること」を職員間で共有し安全に過ごせたり安心してせいかつできるように声掛けにも配慮している。		